

2022年度 入学試験問題

国 語

②

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 問題は、問題一から問題三までです（1頁～14頁）。
4. 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入してください。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

札幌国際大学
札幌国際大学短期大学部

国語

問題一

次の文章は、漫才コンビ爆笑問題の太田光『芸人人語』の一節で、作家の司馬遼太郎が小学生の国語の教科書向けに書き下ろした「二十一世紀に生きる君たちへ」を読んだ記憶から筆者が思いを語っている部分です。この文章を読み、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

司馬さんは二十一世紀を自分は見ることがないだろうと言い、未来の君たち、つまり二十一世紀を目撃出来る今の私達を羨ましい^{うらや}いと言ひ、語りかける。

人類は原始時代、家族を中心とした社会から始まり、現代は「国家と世界」という社会をつくった。そこで重要なのは孤立しないで助け合いながら生きるといふことだと説く。「助け合う」といふことは「他人の痛みを感じる」ことで、「やさしさ」「おもしろい」「いたわり」は同じ一つの根から出ている言葉であるが、人間の「本能」ではないと。人間は訓練をして「他人の痛みを感じる」術を身につけなければならないといふ。

「その訓練とは、簡単なことだ。例えば、友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分でつくりあげていきさえすればよい」

そして、鎌倉時代の武士達は、「たのもしさ」といふことを大切にしたり、という。たのもしい人格を持たなければならないと説く。最後に司馬さんはこう締めくくっている。この部分が私が一番感動した言葉だ。

「私は、君たちの心の中の最も美しいものを見続けながら、以上のことを書いた。／書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた」

I 勇気づけられた言葉はない。司馬さんが私達の未来を「真夏の太陽のようにかがやいて見える」と言ってくれたことだ。

(中略)

今、世界中の人々が自信を持ってないでいると思う。自分達の国の政策や振る舞いは正解だったのか、間違っていたのか。これから正しい道を進めるのか。どこかで間違ってしまうのか。一〇〇%の確信を持って「こうだ」と言える人はいない。皆心のどこかに不安を抱いて、それぞれ

の人が、それぞれの国、環境、年齢、経験、身体、職業、などによって少しずつ違うその瞬間の独自の「恐怖」を感じている。その「個性」と言い換えることも出来る。

司馬さんは言う。優しさは、人間の本能ではなく、訓練をして身につけなければならぬものだ、と。人間にとって重要なのは、想像力だ。

私は、若い人達が司馬さんの文章を読んでもくれたらいいと思う。

自信をなくす必要はない。私は以前やっていた番組で、様々な若者達を取材した。

医療を志す人。消防士、自衛官、警察官などを志す若者達だ。その番組でいつも必ず感じたのは、自分の若い頃と II 違うということだった。私が二十代の頃は、自分のことで精一杯だった。どうすれば人前に出られるか。どうすれば面白いものを創れるか。自分には才能があるのか、と。そんなことで思い悩み、毎日悶々としていたものだ。

今の若者達に話を聞くと必ず出てくるのが、「誰かの役に立ちたいと思った」という言葉だった。私は彼らをとて「頼もしい」と感じた。

私の推測だが、東日本大震災の影響が大きかったと思う。今、どこかで災害があると、本当に大勢の若い人達がボランティアとして被災地に駆け付ける姿をテレビでよく目にする。

大震災から十年目。今医療現場や保健所、役所の最前線で働く二十代〜三十代の人達は、当時小学生から大学生だ。

私は「世代論」というものが III 好きではないのだが、それでも、自分達の頃と、若者は変わったと感じてしまうことが多い。

司馬さんが文章を書いた一九八九年は、爆笑問題がデビューした一年後。私は大学を中退し、親のすねをかじりながら、何もせずブラブラしていた。バブル絶頂期。同世代の連中はDCブランドを着てデイスコで朝まで踊り、女子大生がブームになり、「新人類」と呼ばれ、就職は売り手市場。サザンの「ミス・ブランニュー・デイ」が大ヒットしていた。

お祭り騒ぎ好きで、無邪気であっけらかんとして、それなりにこの国を明るくしたのも事実だが、今の若者達が無自覚にコロナを広げてるなと批判されているのを見ると、あの頃コロナが流行っていたらこんなもんじゃ済まなかったろう、と思ったりもする。

今、小学生や中学生、高校生、大学生は、突然学校が休校になったり、入学式、卒業式が出来なかったり、授業がリモートになったり、部活の大会が出来なかったりと、大変な思いをしている。

学校側では、普段の授業のコマ数が消化出来ず学力低下を心配する声もある。当然の心配だと思う。もしかすると今までの基準で試験をする

と、合格点に達しないことも出てくるかもしれない。子供達もきつと不安を感じていることと思う。しかし C 司馬さんの視点で今の子供達。つまり「未来に生きる君たち」を見ると少し様相が変わって見える。

今まで人類は、戦争以外で、これほど憔悴中が同じ体験をしたことはないと思う。しかも今回は殺し合いではなく、助け合わなければならないという共通の体験だ。そして相手は人ではなくウイルスであり、人と人は憎しみをぶつけ合うのではなく、互いの苦しみを共有しなければ克服出来ないであろうという体験だ、過去の戦争の時と違い、今の子供達は、SNSやオンラインゲームなどで世界と繋がっていて、他の国々の友人と会話が出来る、それぞれの状況を知り、互いの恐怖を理解し話し合うことが出来る。

今の子供達は、幾つもの「問い」を抱えているだろう。なぜ学校に行けないのか？なぜ大人達は不安そうなのか？なぜ親は家にいるのか？なぜテレビは毎日騒いでいるのか？なぜマスクをしなければならぬのか？感染とは？クラスターとは？給付金とは？Go To キャンペーンとは？オリンピックはなぜ延期になったのか？なぜ寂しいのか？なぜ息苦しいのか？

それらの「問い」はそのまま「学問への窓」だ。子供達は答えを求めている。答えを知るには必然的に学ばなければならない。「医学」「疫学」「遺伝学」「確率」「数学」「経済学」「地政学」「社会学」「政治学」「哲学」「歴史」……挙げればきりが無い。人間が勝手に境界線をつくった全ての学問の境を開放し、総動員して考え、それでも明確な答えが見つからないであろう問題だ。

「命か経済か？」とよく言われるが、それは勝手に人間が分けたことだ。実は同じ場所に綺麗に重なっている。全ての学問はそうだ。政府の分科会でも、経済の専門家が参加するようになったが、実はそれだけでは足りない。出来ることなら哲学者もスポーツ選手も、人文学者も物理学者も必要だ。学問と学問の境界を越えなければ、「いかに生きるか？」を問うことは出来ない。境界線を越えるために必要なのが想像力だ。今世界中の子供達が対峙しているのはこうした「大きな問題」だ。座学だけでは学べない「変化する」問いだ。

彼らが「学問への窓」を開けた時、目の前に広がっているのは「学問の歴史」だ。彼らが出会うのは「二千年以上の時間」の中に存在する何億もの友人達だ。きっと彼らはSNSの世界を体験しながら外には更に広い世界があることを知るだろう。

東日本大震災を体験・目撃した若者達をたのもしく感じた私は、今の子供達は「IV 将来「たのもしい人」になると感じ、彼らの未来を想像すると、それは司馬さんの言葉通り「真夏の太陽」のようにかがやいた世界に見えるのだ。

(太田光『芸人人語』より)

注1 DCブランド 国内高級ファッションブランドの総称

注2 ディスコ 音楽が流れ、飲料を提供されながらダンスを踊る場。現在ではクラブと呼ばれている。

注3 サザンの「ミス・ブランニュー・デイ」 日本を代表するロックグループ、サザンオールスターズのヒット曲。

注4 SNS ソーシャルネットワークサービス。登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービス。

注5 対峙 向き合って直面している。

問一 空欄 I Ⅳ に当てはまる適語を、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア ずいぶん イ きつと ウ これほど エ もともと

問二 波線部 i 「悶々としていた」、ii 「あつけらかん」の意味として最も適當なものを、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。

i ア 決断ができずにいた イ 気が晴れずにいた ウ 悲しみに暮れていた エ 笑いをこらえていた
ii ア あきれ果てた様子 イ 何も気にしない様子 ウ 驚いている様子 エ ほんやりしている様子

問三 傍線部 A 「人間は訓練をして『他人の痛みを感じる』術を身につけなければならない」とあるが、「訓練」をする上で必要なことは何か。本文中より三字で抜き出しなさい。

問四 傍線部 B 「自分達の頃と、若者は変わったと感じてしまうことが多い」とあるが、筆者は「若者」をどのようにとらえているか。その説明として最も適當なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

ア 己の欲望の赴くままに行動しその影響にも無頓着だった自分たちに比べ、大きな災厄を経験してきた若者たちは他者を思いやる態度を身に付けていると感じている。

イ 家族を中心とした社会から始まり仲間意識が強い自分たちに比べて、国の政策や振る舞いについて懐疑的になっている若者はいつも社会に対する不満を感じている。

ウ 多くの災害を経験して危機管理能力の大切さを感じている自分たちに比べ、自分の才能を信じ「誰かの役に立ちたい」と考える若者を羨ましく感じている。

エ お祭り騒ぎが好きで、無邪気であつけらかんとしている自分たちに比べ、無自覚にコロナを広げていることに気づかない若者たちを疎ましく感じている。

問五 傍線部C「司馬さんの視点」とはどのようなものか。次の文の空欄部に当てはまる表現を本文中より一〇字で抜き出しなさい。

一〇字
という視点

問六 傍線部D「幾つもの『問い』」を筆者はどのような問題と捉えているか。その内容を最もよく含んだ一文を抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問七 傍線部E「『真夏の太陽』のようにかがやいた世界」とあるが、筆者が思い描く「『真夏の太陽』のようにかがやいた世界」とはどのような世界か。次の語句をすべて用いて七〇字以内で答えなさい。

・インターネット ・他者 ・若者 ・新たな世界

問題二 次の【X】・【Y】の二つの連続する文章を読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

【X】

見出し①

文章の理想は二つに分かれるように私には思えます。

はじめのはなしのときに、竹内好の「屈辱の事件」という文章を引きました。竹内好の文章訓練法のひとつは、漢文の訳は日本語に直すときには一・五倍以上であってはならないということです。こういうルールを守ろうとすると、ものすごい苦しみなんだそうです。竹内さんが亡くなってからも、竹内さんの弟子たちは竹内さんの規則を守って訳をやっているそうです。

竹内さんは漢文教育に反対した人なんです。漢文教育は必要ない。なぜ反対かというと、漢文のように読むことは、日本語で別の意味にしていくにもかかわらず、もとの漢文の意味をそのまま読んでいくという錯覚をもたせる。中国人の心と日本人の心とは、これほど離れているのに同じであるかのような錯覚をもたせるからいけない、という判断なんです。

だけでも、一・五倍という原則を守っていけば、翻訳はできるようになるというのが竹内さんの考え方であるようで、それは漢文教育に反対しながら、漢文の精神をいまの日本語の文章のなかにうけついでいる一つの流儀だと思います。

漢文の特色はその簡潔さにある。竹内さんがよく引いた言葉に「疑疑亦信也」というのがあります。これは『荀子』にある言葉で、竹内さんは、これを漢文読みにするのはいけないといわれるんだが、私は中国語ができないので漢文流に読みますと、「疑いを疑うもまた信なり」となる。たとえば社会主義なんていうのは古い、高度成長でやっていかなきゃいけないという、そうかなあという疑いが生じる。その疑いをまた疑うという疑い方があるでしょう。そういうのは思想じゃないとか、信念じゃないとかいうけれども、それもまた信念なんだ、疑いを疑う、そこに立ちどまるのもまた、一つの行き方だ。それは時代時代に、いろんな大きな説を繰り返し唱えますからね。それに対する疑いをもつ。その疑いをまた疑う。そこに思想の一つの形がある。それも一つの思想の形なんだというのが、私の解釈なんです。

これと対になっているのは「黙して当たるもまた信なり」。何も言わないで黙って事に当たるのもまた一つの信念だという。これは簡潔だけれども一つの思想をあらわしていますね。

私が『論語』のなかで好きなのは「過を觀てすなわち仁を知る」。

人が過ちをするでしょう。失敗がある。そのときに、その切り口のなかからその人の志が見える。その人は、何かいいことをしようと思ってやったけれども失敗した。だいたいの人間の行為は失敗なんだ。だけど、その失敗の切り口のところをじっと見ていけば、何かこういふことを

しようと思つてやつたんだという他人の気持が見えてくる。そういうふうでありたいということなんですが、いまの私のように翻訳すればそれは一・五倍以上だから、竹内流にいえば落第ですね。

この漢文流というのは奈良時代以来千年にわたつて、日本の文体のなかにあるので、漢文をやめるとしても、この簡潔さはなんとかして手放したくない。なぜかという、簡潔な物言いは黙っていることと見合うからなんです。

あまりたくさん文章を書き、本を書いていると、こんなことをやっているといいのかしらと思う。それは私の実感です。そこで、言葉を惜しんで書く。ある沈黙の状態を、自分のなかではつきりつくるために書くことにする。そうすると沈黙も文章を書くのも、ほとんど同じ重さになつてつり合いがとれる。竹内さんの文章は沈黙と同じ重さをもっています。

【Y】

見出し②

それは文章の理想の一つですが、それだけではない。もう一つあります。それは暮らしがだらしなく、毎日いろんなことをやりながらIと動いている、それが自然に反映するような文章もなかなかいいと思う。

沈黙と見合う文章でなくて、暮らしと見合う文章というか、暮らしのなかに溶けこんで、どこまでか暮らしなのか、どこまでが言葉なのかわからないような文章があるでしょう。小田実（注）の文章（まこと）がそうだと思います。あれは一種の美文だ（E）と思う。II漫才（E）みたいにしやべりつづけるわけです。これはあれだけ精力的にやるエネルギーがあつて、暮らしと一枚になつている。あれは一つの流儀ですね。

だから、文章には二つの理想がある。

疑いを疑うもまた信なりで、何度も何度も疑つていくと、不器用になる。だから、リズムにたやすく身をまかせない、リズムを破り、破調にとどまる。それが必要な場合もある。私がよく引く本で、ウィリアム・ストラックという人が書いた『文体の要素』という本があります。この要点を一口でいえば不必要な言葉は削れ、ということなんです。これは竹内さんの理想とも同じですね。

不必要な言葉を全部削つたらそれでいいのかという問題なんです、その規則を堅く守れば、リズムも失われて、生きることでもできなくなる。やはりそうではなくて、そこで動く文体にとつては簡潔がいいからといっても、適度の簡潔さというところがある。適度の簡潔さというものがわれわれの基準になるだろう。適度の簡潔さというのは、沈黙と見合う文章、暮らしに溶けていく文章、この二つの理想の前に立つものです。

（鶴見俊輔『ことばと創造 鶴見俊輔コレクション4』より）

- 注1 竹内好 中国文学者、文芸評論家。1910年～1977年。
- 注2 『荀子』^{じゆんし} 中国戦国時代末の思想家・儒学者荀子の思想書。
- 注3 社会主義 ここでは、高度成長を支えた資本主義や自由主義経済の思想に対抗するもの。
- 注4 『論語』 春秋時代の中国の思想家孔子とその弟子たちの言行録。
- 注5 小田実 小説家、評論家。1932年～2007年。

問一 空欄 I・IV に当てはまる適語を、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----|--------|--------|--------|--------|
| I | ア 嚴然 | イ 冷然 | ウ 雑然 | エ もともと |
| II | ア ポツポツ | イ グングン | ウ キリキリ | エ ペラペラ |

問二 波線部 i 「対」、ii 「切り口」の意味と最もよく表している例を、ア～エからそれぞれ選び記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|----|----------|-------|-------|--------|-------|
| i | 「対」…………… | ア 対決 | イ 対抗 | ウ 一対 | エ 応対 |
| ii | 「切り口」…… | ア すき間 | イ 切断面 | ウ 一割れ目 | エ やり方 |

問三 傍線部 A 「竹内さんの規則」とは何か。そのことを端的に述べている表現を三〇字以内で抜き出し、その最初と最後のそれぞれ五字を答えなさい。

問四 傍線部 B 「竹内さんは漢文教育に反対した人なんです」とあるが、「竹内好」はなぜ「漢文教育に反対した」のか。その理由として最も適切なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 中国人と日本人では心情や思考の違いがあるながらも、映像や小説など文化面での理解が進んできている中で、安易な表現に頼るべきではないと思うから。
- イ 中国人と日本人では心情や思考の違いがあるながらも、互いに理解し合おうとする気持ちが働いているのに、そのような流れを阻害してしまうから。
- ウ 中国人と日本人では心情や思考の違いがあり、同じように見える表現にも根底での違いがあるのに、同じもののように受け入れてしまうから。

エ 中国人と日本人では心情や思考の違いがあり、どうしても埋められない溝のようなものがあるのだから、このことを受け入れるべきだと思っから。

問五 傍線部C「翻訳はできるようにする」とあるが、本文中における「翻訳」とはどのようにすることか。次の語句を全て用いて三〇字以内で答えなさい。

・日本語 ・簡潔さ

問六 次の例のうち、傍線部D「過を觀てすなわち仁を知る」と関連するものはどれか。最も適するものを、ア～エから選り記号で答えなさい。

ア 主人が母鹿を生け捕りにし、部下に命じて母鹿を持ち帰らせようとした。その時小鹿がついて来ていることに気づいた主人は親子の情に心を動かされ、部下に命じて母鹿を逃がしてやった。この様子を見ていた部下はすぐに心変わりをする主人に不信感を持つようになった。

イ 主人が母鹿を生け捕りにし、部下に命じて母鹿を持ち帰らせようとした。部下はその時小鹿がついて来ていることに気づき、親子であることを知っていながらわざわざ母鹿を捕まえた主人の行為を非情なものと思い、帰宅してから周囲の者たちに主人の非道を説いていった。

ウ 主人が小鹿を生け捕りにし、部下に命じて小鹿を持ち帰らせようとした。部下はその時母鹿が近くにいることに気づき、母鹿も捕まえて一緒に連れ帰った。主人は、自分が指示したことに加え更に成果（母鹿を捕まえたこと）を上げたことを評価し褒美を与えた。

エ 主人が小鹿を生け捕りにし、部下に命じて小鹿を持ち帰らせようとした。その時母鹿が喘きながらついてきた。部下は小鹿を逃がしてしまった。それを知った主人は怒って部下の役職を奪い取った。しかし、部下の行為の理由を再考した主人は部下を改めて雇用した。

問七

見出し①

見出し②

に当てはまるものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 暮らしに見合う文章
- イ 漢文教育に見合う文章
- ウ 時代に見合う文章
- エ 沈黙と見合う文章

問八 次の詩で、傍線部E「暮らしと一枚になっている」と関連するものはどれか。最も適するものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

ア

「耳」

私の耳は貝の殻
 海の響きをなつかしむ

イ

「いっ」

どっかに行こうと私が言う
 どこ行こうかとあなたが言う
 ここもいいなと私が言う
 ここでもいいねとあなたが言う
 言ってるうちに日が暮れて
 ここがどこかになっていく

ウ

「山のあなた」

山のあなたの空遠く

「幸」^{さいはひ}住むと人のいふ。

噫^{ああ}、われひと、尋めゆきて、

涙さしぐみかへりきぬ。

山のあなたになほ遠く

「幸」^{さいはひ}住むと人のいふ。

エ

「狩りの角笛^{つがえ}（断章）」

思ひ出は 狩りの角笛^{つがえ}

風の中で声は死にゆく

問題三 次の問にそれぞれ答えなさい。

問一 次のⅠ～Ⅳの傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 経済的にコン窮する

ア コン惑した表情を見せる

イ 不正をコン絶する

ウ 昨コンの状況から判断する

エ 日本は晩コン化が進んでいる

Ⅱ 今日の試合は配色がコい

ア 村でノウ業に従事する

イ 温泉の効ノウを調べる

ウ 借用品を返ノウする

エ 他者とのノウ密な関係

Ⅲ 不ソクの事態に対処する

ア 毎年、身長をハかる

イ 企業の合理化をハかる

ウ 心中を推シハかる

エ 影響はハカり知れない

IV 意気トウ合

ア 毎朝、トウ乳を飲む

イ トウ球の動作をする

ウ 抽選でトウ選した

エ トウ場人物が多い

問二 次のⅠ～Ⅲの傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

Ⅰ 両者の対立は訴訟に持ち込まれた

Ⅱ 工事の影響で土地が陥没した

Ⅲ リハーサルに多くの時間を費やした

問三 次のⅠ～Ⅲの傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

Ⅰ 女性客にシヨウジュンを合わせる

Ⅱ 一人でユウカンに立ち向かう

Ⅲ コンクリートの壁をクダク

